

仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所
 980 仙台市本町一丁目2番12号
 電話〇二二二一七三七番
 編集・発行人 首藤 正義

初代仙台教区長 レミュー大司教
 教皇大使 カルー大司教

教区大会にご出席

迎の辞や教区のこれからの語って頂く「仙台教区の50年」と題する時間が設けられ、プログラムは左のとおりとなる。

教区大会「明日の教会をめざして」

9月14日13時 開会(みことばの祭儀)
 13時30分 講演(1)G・フオス師
 14時30分 質疑応答 14時50分休憩
 15時20分 パネル・ディスカッション
 17時30分 仙台教区の50年
 18時30分 自由参加の祝賀・懇親会

9月15日9時集合
 9時10分 講演(2)A・コレン師
 10時10分 質疑応答 10時30分休憩
 10時45分 ミサ聖祭および閉会式
 12時 解散

現在カナダ在住のレミュー司教様を教区大会にお迎えできることが決定した。教区大会は周知のように、我々の教区の名称が「函館」から「仙台」と改められ司教座も函館から仙台に移されて50年という節目を記念してのものであるが、この改称と移転の認可をローマから得てそれを実行されたのは、そのとき司教被選を受けられたレミュー司教様であった。(仙台司教区50周年はそのままレミュー司教様の司教叙階金祝に当る。)

ローマ教皇の代理として駐日教皇大使もおいでになる。大使は既に何度か教区内の各地においてになつてゐるが、今回は教区が公式にお招きするもので、9月15日のミサ聖祭を司式して頂く。それは我々がローマ教皇との交わりの中にあることを実感できる機会である。

また、前教区長小林司教様も勿論来仙される予定である。

これに関連して大会プログラムが一部変更となつた。わずか30分しかないが、レミュー司教様と教皇大使のご挨拶、佐藤司教様の飲

実行委員会広報部では、計画していた特別講演者お二方とパネラーの発表意見の抄録を間もなく完成、各教会に配布できる見通しである。また、信徒間の交流の便に供するため、大会参加者全員の名簿も作成してこれら8月半ば頃には各教会に配りたいとしている。

財務部からお願ひした各教会分担金は、全教会から協力が得られ感謝している。現在検討中のことは参加費の集金方法と各教会への交通費の支払い方法で、近々これについての問い合わせや依頼状を出すことになつた。

宿舎部に関しては何も問題が起つていないが、遠慮されたのか各教会からの申込みが少なく、むしろ拍子ぬけという感じを受けている状態。展示部は各教会、修道会紹介のポスター作成を呼びかけ、大会当日には会場に一大絵巻ができることを期待している。尚、青年部会では青年達の話し合いの場を設けて互いの結びを強め、今後の動きへの踏み台とすべく計画を立てている。

司教様の日程

(6月30日現在)



7月4〜5日 児童施設協・保育施設協合同
 全国会議(東京)

6日 宮城県信徒連絡協議会(元寺小路)

9日 カリタス・ジャパン(東京)
 常任司教委員会(東京)

13日 東仙台教会堅信式

14日 教区司祭団役員会(仙台)

16〜18日 カリタス・ジャパン(東京)

29日 宮・宗法連常任幹事会(仙台)
 ボーイスカウト・ジャパンポリー

8月5日

8日 カリタス・ジャパン、
 中央協財務委員会(東京)

11日 教区司祭団役員会(仙台)

25〜29日 教区司祭団黙想会(仙台)
 ベトレヘム会月例会(志家)

9月1日

(蔵王)

6月7日～8日・於光ヶ丘研修所
第2回 仙台教区

広報担当者の集い

出席者20名



広報の仕事はもろもろのこと、活字には興味がほとんどない主婦の私が大切な教会の広報部になり、とにかく、勉強しなければどうしようもない、という気持で、仙台の広報のつどいに参加させていただきました。この度のことはいは、私にとつて、とても楽しく、今までの不安を、すっかりなくしてくれました。

7日の夜の長谷川昌子先生(女子パウロ会)の講演は、小教区報の役割、そしてその大切さについて、細かく説明なさって下さったので、初めての私でも、その雰囲気ですぐとけ込むことができて、少しでも理解できたことに感謝しています。

特に心に強くのこっていることは、広報を作るにあたり、上からの情報やお知らせなどだけにとどまらず、下からの声も大切にしなければならぬ、ということでした。そして又、各々の教会の個性を大切に、みんなに読んでもらえる広報を作ることにより、すばらしい宣教になることも知りました。

翌日の御ミサ後のあつまりには、広報の作り方を学びました。各教会の活動、そしてまた苦労話など、時間のたつのもわずけて話しあいました。＼ほんとうに参加させてもらってよかったです!＼という思いがいつばいで帰ってまいりました。

篠田教会は歴史が浅く、小さな教会ですが、デュベ・シル神父様を囲んで、とても家族的な楽しく明るい教会です。この教会で、私は広報係として生まれればかりで、今、学んだこと、心に思ったことをすぐに広報に表わすことはできませんが、少しずつ、「血の通った広報」を作れるように、信者さん一人一人の声を大事にし、協力してもらいながら、がんばっていききたいと、深く心に思うことができました。ことに感謝いたします。ありがとうございました。(篠田教会・白川 順子)

「寿庵祭」を終えて

水沢教会 菊地 栄子

6月1日午前9時半から、水沢市福原で春の寿庵大祈願祭が行われました。晴天に恵まれ、25名が参加しました。当日は若手カトリックセンターで相馬司教様の講演会があったため、盛岡からの参加者は少なく、一関から大勢参加されました。又、水沢市長は行事のため欠席でしたが、農事実行組合の代表者がそろって出席されました。9時半、担い手センターから行列が発発し、佐藤司教様も参列して寿庵廟に到着しました。

仙台司教区50周年の記念として、佐藤司教様を迎え、講話の中で、健康に生きるための四つの条件(食べる・飲む・寝る・働くこと)と、この世に生きる最も大事なものは、大地の恵み・労働の実りの農産物であり、額に汗して働くのはこの世に生きるためだけでなく、永遠に生きるためのものであり、永遠の命に必

要な食べ物として思い、願いをこめて祈りを捧げましょうと結ばれました。

ヨハネ・ローネル神父様の田畑の祝別、司教様を中心として11人の司祭の共同ミサが行われました。この日の献金は、カナン園、ネグロス島のため9万5千円を送金しました。ミサの終わりに着物姿のかわいい子供たちから花束が手渡され、大歳会長のお礼の言葉で儀式は終わりました。

福原地区婦人部のアトラクションで踊りを楽しみ、又、ジョリコール神父様の上手な替え歌にも大きな拍手がわき、お昼を食べながら和やかなひとときを過ごしました。

昼食後、司教様も参加して20人位の人たちが寿庵堰めぐりをし、他の人たちは新しい教会と展示ホールをゆっくり見学されました。

今年の寿庵祭も晴天のうちに無事終え、感謝の心で後片づけを楽しく終わりました。

高校生だけのSVP協議会 仙台に誕生

去る7月7日、聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会聖ウルスラ学院高等学校協議会設立記念ミサが学校の聖堂で行われた。当協議会は学院の木曜会の一つの集まりとして認められ、5月29日発足した。早坂養吉先生(元寺小路)を霊的指導者として23人の高校生が会員となり、福寿苑とスベルマン病院への訪問をはじめたばかりである。「最初慣れなかったが、出会う人々が皆明るくうれしかった。おしついでなく頼まれたことに応えて行きたい」と、本間裕美子会長(高3)は語っていた。

192 センチからの日本の眺め(7)

大人のつきあい

村首ステファノ

ヨーロッパの習慣・西洋人の習慣と日本人の習慣とを比較するのは余り好きではないのですが、感じていることがあります。

「人間はひとそれぞれいろいろな意見を持っている。もし、ひとは自分の意見をはっきり言うならば、必ずしも相手もそれに百パーセント賛成する訳ではない。相手も別な意見を持っている。」そういうことを感じて、日本においては、「大人のつきあい」では自分の意見をはっきり言わない場合が多いように思われる。

どうしてそうなのか？

もし、自分の意見をはっきり述べたならば相手が自分と同じ意見を持たない場合、ケンカの状態になる。そして感情的な問題となりその人とは一緒に生活することが出来なくなる。家族の場合、同じ屋根の下で暮らすことが出来なくなる。

それから、自分の意見を述べると、まだ若いとか、まだ大人でないとか、学生のクセにとか、何か批判されてしまう。

日本人みんなが皆そうだとはいえないが、そういうことを感じる。

本当は、大人のつきあいはどのようなものなのだろうか。

私の考えでは、自分の意見をはっきり言うことが出来ること、そして、たとえ相手が自

分とは正反対の意見を持ったとしても、討論しながら相手の立場を理解することが出来ることではないか。

理想的な大人のつきあいは、自分の意見を述べることが出来、討論してもかまわないから、感情的にならず、友達同士として、また友達だから反対意見も言えるという関係。このことはむずかしい。

日本で、ひとが尊敬されるのは、自分の意見を余り出さない人、そして相手の意見を静かに聞く人。聞いたことに対し、自分は何を考えているか余り言わない人。もし言ってしまうとケンカになり、つきあいがなくなる。そういうことを感じて、余り自分の意見を言わない。これが大人であると言われる。

はつきり自分の意見を言うと、子供扱いをされ、上手に世の中を渡れない人だとか、わがままだとか、変わっている人だとか批判される。

人間はとても複雑である。確かに、ある事柄に関して正反対の意見があるかもしれない。しかし、正反対の部分があるかもしれない。他のも同じ部分をたくさん共有できるかもしれないのに、その時は、そのことをひとは忘れてしまうものである。

第15回司祭大会 終る

去る6月23日～25日、仙台で仙台教区司祭大会が開かれた。「司祭団として宣教を考える」をテーマに44人の司祭が集まり、分科会を中心に①司祭間のつながり②宣教体制③小教区の活動等について話し合われた。

「新世界」黙想会に参加して

元寺小路教会 青年会 杉崎 誠一郎

6月14～15の両日、沢田和夫師の黙想会がドミニコ会・祈りの家で行われ、今回初めて参加させて頂きました。

今回の黙想会では、黙想の時間はそれほど多くなく、ルカ伝を読みながらの講話が中心でした。沢田師のお話はわかり易くて非常によく、感激して帰ってきました。が、今原稿に書こうとすると、情けないことに、ほとんど覚えていないのです。

それでもそんな頭に一つだけ残っているのは、「聖書を読め」とおっしゃった事です。

聖書というと勉強するものというイメージがありますが、「読むこと」も重要だと言われたのです。小さい子が母親に童話を読んでもらうのに、いつも同じ箇所を読んでもらっていても、いつも初めて聞く時のように楽しんでいますが、聖書を読むのもそれと同じだと言われました。なかなかむずかしそうですが、確かに聖書もそのように読めなければならぬのでしよう。そうすれば、読む度に、聖書の言葉を感じとれるのでしよう。

今回の黙想会のテーマは「聖書で祈る」でした。聖書を楽しみながら、その都度感じとりながら読むようにすれば、それは祈りにつながるのでしょうか。今後は聖書に親しみ、祈りに通じる読み方を心がけたいと思います。

スカウトは

いま

青森・浪打教会

ボーイスカウト青森第十団

カブスカウト隊の活動

当十団のカブスカウトは、現在30名です。

活動的には他県に比べてやりやすい環境にあり、カブスカウト達も、毎週の集会がとても楽しみのようです。

十団の一年の活動を簡条書にしますと、4月は入隊式のため、ほとんど毎週集会があります。5月は雪が山から姿を消して緑が山いっばいに広がるので、山菜とりをかねて、山で一泊舎営をします。6月には団の交流として、ガールさんと合同のハイイク、7月夏休みに入ると他の地域に移動して2泊3日の舎営をします。8月はネプタやお盆が控えていますので休みが多いです。9月は地区の団との交流や、山登りを全体でやつたり、10月はカトリック教会とガールスカウト、幼稚園、十団の四者合同バザーのため、それに向けてスカウト達は色々な作品を作ったりします。11月は青森市にある老人ホームを訪問したり、12月はクリスマス、1月はスキーの一泊舎営をします。2月はベーデンパウエル卿の誕生の月なのでそれに見合った活動、3月はお別れ会等で一年の活動を行っていきます。ボーイスカウトの活動報告は色々あります



が、当十団は規模が大きく、シニアもあり、今年からローバー班も誕生する予定です。又、夏に行われるジャンポリーは、カブスカウトの四年五年生、ボーイスカウトの参加出来ない人達の団体で見学に行くつもりです。他県のカトリックボーイスカウトと会えるのも楽しみにしている事の一つです。

(隊長・武川 由紀恵)

シニア隊の活動

シニア隊が発隊したのは、昭和58年4月です。それまでは班登録であり、かりにも活発とはいえない状況でした。3年間にわたり着々と発隊準備を進め、上進するスカウト5名の菊スカウト上進をきっかけに、発隊しました。

活動内容については、5月には県外への移動キャンプ、9月には県内での固定キャンプを2本の柱とし、ハイイク・舎営・奉仕を行っています。また、当隊の特徴としては全員参加の原則をとっており、月末に行われる班長会議において、全員が参加できる日程を決めています。ですから登録人数イコール活動できる実際の人数であり、出席率はほぼ百パーセントになっています。

また、「明るい仲間」を隊のモットーとしており、楽しく活動できるよう心掛けております。全国的にシニアスカウト活動が停滞しているなかにあつて、当隊は着実にスカウト数を増やし(現在13名)、県内一のシニア隊となっておりです。

(隊長・根岸 英樹)

「朝禱会」へのご案内

仙台YBU文化センター

YBU文化センターでは、今年3月以來、毎月第一と第三金曜日、朝7時〜8時半まで朝禱会を行っています。

「朝禱会」というのは、29年前、大阪クリスチャン・センターで始まった超教派の祈りの運動です。出勤前の一時、時間と場所を決めて集まり、聖書を読み、賛美歌をうたい、それに応ずる祈りをし、つづいて簡単な食事をして交わりの時をもちます。

皆さん、この教会一致の祈りの運動のために、どなたでもふるって御参加ください。(Tel仙台・261-5341)

【編集後記】

仙台教区大会も開催まであと一か月とちよつと。参加者名簿提出・宿泊・教会紹介のバネル作りと、静かな盛りあがりを感じられる。

その教区大会の中に青年部会が設けられたと聞く。これは、「明日の教会をめざす」仙台教区にとつて大いなる希望となるであろう。青年は青年同士集まるだけで、そこに何かが生まれる。全く無計画・無目的と思えるようなことの中でも新しい出来事が起る。それはお互いの秘められた可能性に対する信頼があるから。これが青年の特徴であり、すばらしさである。青年の企画・運営になる青年部会にはくしゅを送る。

(首)